

令和7年度碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会次第

日時 令和7年8月1日（金）

午前10時から午前11時30分まで

場所 碧南ふれあい作業所 3階会議室

1 あいさつ

2 議題

(1) 令和6年度事業報告及び収支決算について

(2) 令和7年度事業計画及び収支予算について

3 その他

碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会委員

	区分	選出団体名等	氏名	役職名
1	市職員	碧南市 副市長	山本 政裕	委員長
2	学識経験を有する者 (市長が必要と認める者)	東海税理士会刈谷支部本会理事	伴野 義雄	
3		日本福祉大学教授	青木 聖久	
4	各種団体を代表する者 (市民の代表)	碧南市民生委員児童委員協議会代表	古久根 久美子	
5		碧南市地域自立支援協議会就労支援部会長	高松 有美	
6	市職員	碧南市企画財政部企画政策課長	山本 貴史	

任期：令和５年７月１日から令和８年６月３０日まで

指定管理者

1	碧南ふれあい作業所	碧南ふれあい作業所所長	渡邊 明香
2		社会福祉法人WH J 理事長	竹内 涼
3		社会福祉法人WH J 法人本部経理部長	熊本 直孝

事務局

1	市職員	福祉部長	伊藤 正博
2		福祉課長	磯貝 浩
3		福祉課福祉総務係長	金原 寛

令和6年度 碧南ふれあい作業所事業報告書

I. 施設概要 利用実績

施設種別	生活介護
事業所番号	2313200020
所在地	愛知県碧南市中山町1-16-1
事業開始日	平成8年7月1日
障害種別	指定なし
定員	生活介護 60名 日中一時 70名
開所日/時間	月曜日～金曜日 9:00～16:00

A. 登録市町村 碧南市

B. 利用実績

	生活介護	日中一時	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	60人	70人	
利用者延数	12778人	989人	
1日平均利用者数	52人	4人	
稼働率、稼働指数	87.3%	5.5%	
稼働日数	244日	256日	
単価（一人一日当たり）	7,472	5,974	
介護給付費等収入	95,474,602	5,908,600	101,383,202
職員数（常勤換算）	14.2		14.2

II. 事業計画・目標の達成状況

A. 運営目標・理念

- ・「作業に特化した生活介護」 社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としてのプログラムや楽しみもある施設。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指す。
- ・「高齢利用者の活躍の場を」 高齢になってもできる仕事に取り組み、いつまでも社会の一員として働ける環境を提供し、人生の生きがいと一緒に見つける。

令和6年度は、農園の花苗を通じて地域交流を図り、市内の幼稚園・保育園を訪問し、利用者と園児と一緒に花苗を植える活動を行った。また、中山福祉会と協力して中央中学校の花壇を作業所の花でいっぱいにし、生徒と花苗を通じて交流を深めた。

ひいらぎ特別支援学校では、出前授業の一環として作業所の利用者が生徒に紙漉き作業を教え、体験してもらうことで親睦を深めた。西尾特別支援学校では、授業の一環として利用者と生徒が種から花を育て、碧南市役所と西尾市役所の玄関前に花を飾りました。この活動は三河新報と愛三時報に掲載されました。さらに、西尾特別支援学校の卒業生に送る色紙を紙漉きで作成する体験も行い、色紙の裏には、作業所のことをより多くの方に知ってもらえるように願いを込めて、「西特と碧南ふれあい作業所」のゴム印を押させてもらった。

余暇としては、バーベキュー大会、ハロウィンパーティー、クリスマス会など、毎月季節のイベントを企画し、利用者に楽しんで頂き、リフレッシュして頂いた。

高齢班(ピース班)の活動も月に1回以上の活動日を設け、喫茶活動や誕生日会を開くなどして作業以外での余暇活動時間の充実を図った。またそれぞれに個別目標を設定し、リハビリテーションプログラムも含めた運動を行い、健康維持に努めた。

また、今年度65歳を迎える利用者はいないものの、本人・家族の望む生活が継続して行えるよう適時碧南市との連携、調節を図り「65歳問題」解決に向け取り組んでいく。

B. 事業計画

生活介護（定員60名）

① 新規利用者3名を目指す

年度途中で1名の新規利用者と契約する事が出来たが、3名には至らなかった。今後も介護保険に移行する方が増える事が見込まれるので、次年度も新規利用者の確保を目指して行く。

② 地域交流

わらふえすでは、紙すき体験を行い地域の方々との交流を図った。今年度も11月よりひいらぎ特別支援学校と授業の一環として作業所の紙漉きを体験してもらった。毎月、作業所の利用者を講師として紙漉きのやり方を生徒さんへ教え交流をした。また、今年度からにしお特別支援学校とも交流を図り、紙漉きを通じて卒業生に送る色紙を利用者と一緒に作成した。

その他、農園の花苗を通じて花の育成をし、碧南市役所、西尾市役所の玄関前に交流の一環として花を飾らせてもらう事が出来た。また、新聞にも掲載され利用者のご家族からも称賛を頂いた。他、市内の保育園や児童クラブ、小中学校へ出向き利用者と生徒さんの交流を持つことができた(2か月に一回程)。ただ、車いす体験は学校の一環として行っている為、出来なかった。

引き続き作業所の強みを活かし、市内幼稚園・保育園や小中学校と交流を図り、幼少期から障がい者とふれあえる機会を作っていく。

③ 高齢班の確立

令和6年度からピース班を立ち上げ、本格的に活動を始めている。職員の配置上、月1回のペースで喫茶活動や創作活動等、誕生日会を行った。また、ピース体操として外部からボランティアを招き、健康維持の為に運動を行った。

④ チームとしての支援をしていく

全職員、リモート研修も増えたため複数回研修に参加する事が出来た。法人内交換研修も参加でき、他事業所を知る機会もあり、自事業所に持ち帰ることができた。また、施設内で利用者のケース会議を開き、各担当の利用者支援についての悩みを職員間で話し合い、共通支援が出来る様にした。その他、利用者の気持ちを知る研修を行い、車いすや担架に乗っている時の利用者の気持ちを知ったり、食事介助（食事形態）の際、口へ運ぶペースや量、とろみ食の食感や味を知る研修を行った。また、研修へ行った職員主体でPECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）の勉強会も行った。

チームビルディング研修として、自分の感情を表情にすると相手に伝わるのかと言うゲームを行った。なかなか相手には、伝える事が難しく、発語が難しい利用者の気持ちを知るの簡単ではないという事を理解し、支援する際には表情だけではなく、その他の情報が必要になる為、日ごろから利用者と接する事が大事だと確認した。

日中一時支援（定員70名）

毎月季節のイベントや調理実習、外出企画を考え、安心・安全に考慮しながら取り組むことができた。介護保険に移行した方たちが、日中一時で利用をするようになり利用人数も増えている。企画内容として

は、高齢化や持病がある利用者もいるので、アップダウンの激しい場所や調理実習する際の調理方法には細心の注意を払っていく。

C. 研修計画

【碧南ふれあい作業所が目指す職員像】

『利用者の気持ちに寄り添い、自分で考え行動ができ、職員で共有し合える伴走者（職員）になろう』
まずは、自分の気持ちを理解し、他者の持っている視点や意見を理解し、自分ごととして感じとり、共感力を高めていく。それと共に、行動も変化していけるようにしていく。

・全職員共通

『利用者主体の支援』と『チーム連携』

・一般職員

『利用者に寄り添った丁寧な支援者』

利用者の気持ちや状態に耳を傾け、「できることを引き出す支援」を意識した行動がとれる職員を目指していく。

・リーダー職員

『チームを牽引する支援のリーダー』

支援の質を高め、一般職員に対して指導・助言が出来る。利用者の状況や支援計画をチームで共有し、実践をリードする職員を目指していく。

個別の研修においては、予定通り管理者主任ともども志賀研修を受講できた。

強度行動障害支援者養成研修の基礎研修に2名参加。

今年度からボッチャプログラムに力を入れている事もあり、ボッチャ協議審判協力員養成研修に参加。

サービス管理責任者実践研修に1名参加。

社会福祉士実習指導者講習に1名参加。これにより、社会福祉士を希望する方の受け入れが可能になった。

支援内容を強化する為に、PECSのワークショップに参加。

その他、ハラスメント講習等に参加。

Ⅲ. 対処すべき課題

・生活介護（定員60名）

数年前から本人・家族の高齢化が著しく、急に体調を崩す方や病気を患い医療的ケアが必要になる利用者が増えている。昨年からは作業所は、65歳になり介護サービスへ移行した利用者が3名いるが、60代の利用者も9名程在籍しており、3年後には、第2波がやってくる。今後も利用者が減っていく事が予想される。また、令和6年度は、平均利用率が52名だったこともあり、利用者の新規確保が必要になっている。その為に、作業所のパンフレットを市内の施設に設置したり、特別支援学校や小中学校との交流を通じて作業所の知名度を上げていく必要がある。

利用者の減少に伴い収入も減少してきている為、相談支援事業所、特別支援学校と連携し、新規利用者を確保する必要がある。また、今年度から市外の方の利用も可能になり、利用者の幅が広がったので、これを期に利用者増員を目指したい。

・日中一時支援

日中一時支援（児童の放課後）を再開し、働ける生活介護として作業所に興味がある児童の方に、紙漉きや下請け作業、農園作業を体験してもらう機会を設けると同時に、卒業後作業所に通所する場合の環境の変化を少しでも減らし、精神的負担を抑えて円滑に施設への移行がおこなえるようにしていく。

また、放課後支援を利用して頂き、作業所が卒業後の進路先の一つになるようにしていき、利用者の確保

に繋げたい。

日中一時支援（成人）の企画内容としては、高齢化や持病がある利用者もいるので、アップダウンの激しい場所や調理実習する際の調理方法には細心の注意を払っていく。

IV. 利用者の状況

碧南ふれあい作業所	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和6年度	令和5年度
生活介護	延べ人数	1124	1112	1067	1209	1009	1012	1128	1069	997	968	1001	1082	12778	13225
	一日平均	53.5	53.0	53.4	55.0	53.1	53.3	51.3	50.9	49.9	50.9	52.7	51.5	52.4	53.8
	営業日数	21	21	20	22	19	19	22	21	20	19	19	21	244	246
	利用率	89.2%	88.3%	88.9%	91.6%	88.5%	88.8%	85.5%	84.8%	83.1%	84.9%	87.8%	85.9%	87.3%	89.60%
日中一時（成人）	延べ人数	87	88	84	83	76	77	83	79	69	76	79	82	963	602
	営業日数	22	22	21	23	20	20	23	22	21	20	20	22	256	92
日中一時（児童）	延べ人数	3			4	13				1			5	26	7
	営業日数	5	0	0	8	19	0	0	0	4	0	0	19	55	7

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1				1							
サービス管理責任者	1				1							
生活支援員	8	10	3	3	5	7				1		-1
看護師		3				3						
調理員		2		1		1				1		-1
合計	10	15	3	4	7	11	0	0	0	2	0	-2

第二号第四様式（第二十三条第四項関係）

碧南ふれあい作業所拠点区分事業活動計算書
(自) 令和 6年 4月 1日 (至) 令和 7年 3月31日

(単位：円)

勘 定 科 目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	収	0075 障害福祉サービス等事業収益	108,963,708	113,054,259	△4,090,551
		0076 自立支援給付費収益	95,474,602	103,816,869	△8,342,267
		5341 介護給付費収益	95,474,602	103,816,869	△8,342,267
		5352 利用者負担金収益	20,800	6,850	13,950
		5364 特定費用収益	4,822,700	4,650,600	172,100
		0078 その他の事業収益	8,645,606	4,579,940	4,065,666
	益	5371 補助金事業収益(公費)	2,737,006	927,940	1,809,066
		5372 受託事業収益(公費)	5,908,600	3,652,000	2,256,600
		0086 その他の事業収益	5,891,671	5,995,930	△104,259
		0087 その他の事業収益	5,891,671	5,995,930	△104,259
		5523 その他の事業収益	5,891,671	5,995,930	△104,259
		0089 経常経費寄附金収益	50,000	50,000	
		5541 経常経費寄附金収益	50,000	50,000	
	サービス活動収益計(1)		114,905,379	119,100,189	△4,194,810
ビ ジ ネ ス 活 動 増 減 の 部	費 <				

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

第二号第四様式(第二十三条第四項関係)

碧南ふれあい作業所拠点区分事業活動計算書

(自) 令和 6年 4月 1日 (至) 令和 7年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
	4335 雑費	20,767	2,376	18,391
	0027 減価償却費	381,879	139,312	242,567
	4451 減価償却費	381,879	139,312	242,567
	サービス活動費用計(2)	118,219,300	109,167,611	9,051,689
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△3,313,921	9,932,578	△13,246,499
サービス活動外増減の部	0093 受取利息配当金収益	49,050	8,682	40,368
	5821 受取利息配当金収益	49,050	8,682	40,368
	0098 その他のサービス活動外収益	466,750	1,654,330	△1,187,580
	5871 受入研修費収益	27,900	27,280	620
	5872 利用者等外給食収益	438,850	703,050	△264,200
	5874 雑収益		924,000	△924,000
	サービス活動外収益計(4)	515,800	1,663,012	△1,147,212
	0038 その他のサービス活動外費用	242,000		242,000
	4843 雑損失	242,000		242,000
	サービス活動外費用計(5)	242,000		242,000
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	273,800	1,663,012	△1,389,212
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	△3,040,121	11,595,590	△14,635,711
特別増減の部	収益			
	特別収益計(8)			
	費用			
	0047 拠点区分間繰入金費用		11,000,000	△11,000,000
	4962 拠点区分間繰入金費用		11,000,000	△11,000,000
	特別費用計(9)		11,000,000	△11,000,000
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		△11,000,000	11,000,000
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△3,040,121	595,590	△3,635,711
	前期繰越活動増減差額(12)	83,574,784	82,979,194	595,590
繰越活動増減差額の部	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	80,534,663	83,574,784	△3,040,121
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)			
	その他の積立金積立額(16)			
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	80,534,663	83,574,784	△3,040,121

社会福祉法人名 社会福祉法人ダブルエッチジェー

事業所名

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

第三号第四様式（第二十七条第四項関係）

碧南ふれあい作業所拠点区分貸借対照表

令和 7年 3月31日現在

（単位：円）

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
0001 流動資産	90,905,955	93,900,152	△2,994,197	0006 流動負債	13,386,191	11,232,146	2,154,045
1111 現金	34,087	76,934	△42,847	2112 事業未払金	8,988,191	8,644,146	344,045
1112 預金	73,220,564	75,578,962	△2,358,398	2152 賞与引当金	4,398,000	2,588,000	1,810,000
1131 事業未収金	17,051,290	17,788,860	△737,570	0007 固定負債	3,202,920	2,728,620	474,300
1132 未収金	59,910	455,396	△395,486	2321 退職給付引当金	3,202,920	2,728,620	474,300
1133 未収補助金	540,104		540,104	負債の部合計	16,589,111	13,960,766	2,628,345
0002 固定資産	42,217,819	39,635,398	2,582,421	純 資 産 の 部			
0004 その他の固定資産	42,217,819	39,635,398	2,582,421	0011 その他の積立金	36,000,000	36,000,000	
1313 構築物	735,000	735,000		3221 その他の積立金	36,000,000	36,000,000	
1314 機械及び装置	262,500	262,500		0012 次期繰越活動増減差額	80,534,663	83,574,784	△3,040,121
1315 車輛運搬具	605,220	605,220		3311 次期繰越活動増減差額	80,534,663	83,574,784	△3,040,121
1316 器具及び備品	6,971,992	4,481,992	2,490,000	3312 （うち当期活動増減差額）	△3,040,121	595,590	△3,635,711
1318 減価償却累計額 △	5,559,813	5,177,934	381,879				
1329 退職給付引当資産	3,202,920	2,728,620	474,300				
1332 その他の積立資産	36,000,000	36,000,000		純資産の部合計	116,534,663	119,574,784	△3,040,121
資産の部合計	133,123,774	133,535,550	△411,776	負債及び純資産の部合計	133,123,774	133,535,550	△411,776

碧南ふれあい作業所 令和7年度事業計画

I. 基本理念

- ・「作業に特化した生活介護」 社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としてのプログラムや楽しみもある施設。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指す。
- ・「高齢利用者の活躍の場を」 高齢になってもできる仕事に取り組み、いつまでも社会の一員として働ける環境を提供し、人生の生きがいと一緒に見つける。

運営方針

- ・作業所は生活介護としては作業量が多いのが特徴であり、利用者の方も「仕事に来ている」という意識の方が多い。また家族も「就職してほしい」という思いから作業所を選択される方が多い。他の生活介護事業所にはない特色であり、ある程度の収入を得られることを強みとして今後も維持・向上を図っていく。また新規利用者にも繋がることでもあるので、そこをアピールする機会を設けていく。紙すきや花苗など特化した作業もあり、作業所の強みである生産品を通じて地域交流のきっかけとして作っていく。作業とは別に、月に1度の創作活動や季節にあった行事なども積極的に取り入れ、仕事と余暇のメリハリのある生活を送れるように支援していく。令和5年度から「中山福祉の会」の活動に協力しており、今年度も会の人たちや中央中学校の人たちと花苗を通じて交流を図った。中山地区の住民に障がい者施設の事を知ってもらえるように引き続き活動に参加していく。
- ・高齢になってもいままでの仕事や経験を尊重しながら、本人に合ったものを提供していく。令和5年の途中から碧南市の方針として65歳になると同時に介護保険に移行する事になった。今年度は、65歳になる利用者で介護保険に認定される方はいなかったが、数年後に5名の方が介護保険の対象になる為、本人の希望で作業所に通いたいと言ってくれる方に対し高齢班を充実させ、引き続き魅力ある作業所としていきたい。
- ・令和7年度から指定管理期間が継続になり、他市の方も利用可能になる。

II. 事業計画

令和6年度計画の振り返り

生活介護（定員60名）

① 新規利用者3名を目指す

年度途中で1名の新規利用者と契約する事が出来たが、3名には至らなかった。今後も介護保険に移行する方が増える事が見込まれるので、次年度も新規利用者の確保を目指して行く。

② 地域交流

わらふえすでは、紙すき体験を行い地域の方々との交流を図った。今年度も11月よりひいらぎ特別支援学校と授業の一環として作業所の紙漉きを体験してもらった。毎月、作業所の利用者を講師として紙漉きのやり方を生徒さんへ教え交流をした。また、今年度からにしお特別支援学校とも交流を図り、紙漉きを通じて卒業生に送る色紙を利用者と一緒に作成した。

その他、農園の花苗を通じて花の育成をし、碧南市役所、西尾市役所の玄関前に交流の一環として花を飾らせてもらう事が出来た。また、新聞にも掲載され利用者のご家族からも称賛を頂いた。他、市内の保育園や児童クラブ、小中学校へ出向き利用者と生徒さんの交流を持つことができた(2か月に一回程)。ただ、車いす体験は学校の一環として行っている為、出来なかった。

引き続き作業所の強みを活かし、市内幼稚園・保育園や小中学校と交流を図り、幼少期から障がい者とふれあえる機会を作っていく。

③ 高齢班の確立

令和6年度からピース班を立ち上げ、本格的に活動を始めている。職員の配置上、月1回のペースで喫茶活動や創作活動等、誕生日会を行った。また、ピース体操として外部からボランティアを招き、健康維持の為の運動を行った。

④ チームとしての支援をしていく

全職員、リモート研修も増えたため複数回研修に参加する事が出来た。法人内交換研修も参加でき、他事業所を知る機会もあり、自事業所に持ち帰ることができた。また、施設内で利用者のケース会議を開き、各担当の利用者支援についての悩みを職員間で話し合い、共通支援が出来る様にした。その他、利用者の気持ちを知る研修を行い、車いすや担架に乗っている時の利用者の気持ちを知ったり、食事介助(食事形態)の際、口へ運ぶペースや量、とろみ食の食感や味を知る研修を行った。また、研修へ行った職員主体で PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の勉強会も行った。

チームビルディング研修として、自分の感情を表情にすると相手に伝わるのかと言うゲームを行った。なかなか相手には、伝える事が難しく、発語が難しい利用者の気持ちを知るのは簡単ではないという事を理解し、支援する際には表情だけではなく、その他の情報が必要になる為、日ごろから利用者と接する事が大事だと確認した。

○現状分析・課題

生活介護(定員60名)

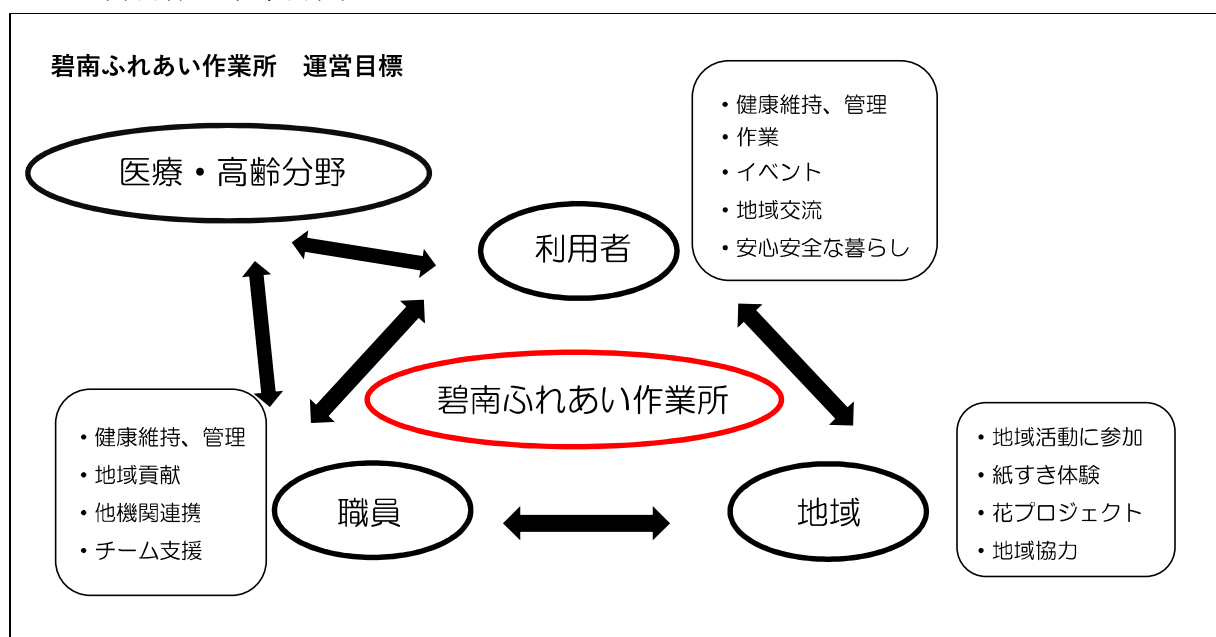
・数年前から本人・家族の高齢化が著しく、急に体調を崩す方や病気を患い医療的ケアが必要になる利用者が増えている。昨年から作業所は、65歳になり介護サービスへ移行した利用者が3名いるが、60代の利用者も9名程在籍しており、3年後には、第2波がやってくる。今後も利用者が減っていく事が予想される為、作業所のパンフレットを市内の施設に設置し、特別支援学校や小中学校との交流を通じて作業所の知名度を上げていく。また、日中一時支援(児童の放課後)を再開し、働ける生活介護として作業所に興味がある児童の方に、紙漉きや下請け作業、農園作業を体験してもらう機会を設けると同時に、卒業後作業所に通所する場合の環境の変化を少しでも減らし、精神的負担を抑えて円滑に施設への移行がおこなえるようにしていく。

・利用者の人数減により収入も減少してきている。特別支援学校の出前事業を通じて作業所に興味を持ってもらったり、放課後の日中一時を再開する事で作業所の作業内容を体験・知ってもらい知名度を上げ、卒業後の進路先にしてもらえるようにしていく。また、相談支援事業所、特別支援学校と連携し、新規利用者を確保する必要がある。

日中一時支援事業（定員 70 名）

・毎月季節のイベントや調理実習、外出企画を考え、安心・安全に考慮しながら取り組むことができた。介護保険に移行した方たちが、日中一時で利用をするようになり利用人数も増えている。企画内容としては、高齢化や持病がある利用者もいるので、アップダウンの激しい場所や調理実習する際の調理方法には細心の注意を払っていく。

A. 運営目標・事業計画



① 新規利用者 2 名を目指す

・令和 7 年度中に介護保険に移行する方はいないが、高齢化が進んでいる為、来年度卒業生を含め、新規利用者 2 名を目指す。卒業生はもちろん、地域で行き場のない方々を受け入れられるような体制を作り、相談支援事業所や特別支援学校と連携を図っていく。

② 地域交流

・紙すきや農園の花苗を通じて幼保育園、小中学校、特別支援学校との交流を図り、利用者を児童との交流を図り、市役所と連携しながら地域に貢献していく。

・わらふえすやイベントなどで移動式の紙漉きを使って、紙漉き体験が出来る機会を設け、出来上がったハガキを作業所に取りに来てもらう事により、作業所に足を運んでもらう機会を設ける。また、認知症イベントに参加し、作業所で育てたマリーゴールドの種を配布し作業所の事を地域に知ってもらう機会をもち、貢献をしていく。

・イベント等で紙すき体験の場を設ける（年 2 回）。

・花苗という作業所のツールを活用し、幼保育園との交流を図り、幼少期から障がいを持った方と接す事により、自分とは違う特長がある人があるという事を知ってもらい、それが当たり前の風景になるようにしていきたい。

・令和 5 年度から「中山福祉の会」の活動に協力をしている。この活動を通じて地域交流の場が増えてきているので、引き続き協力をしていく。

③ 利用者の健康管理

- ・毎朝作業前にラジオ体操を行う
- ・高齢班だけではなく、全利用者の健康管理を行う為にも月に1～2回「ボッチャプログラム」「ピース体操」を引き続き行っていく、体力維持を図っていく。ボッチャプログラムは、大会に参加したり、他の施設と練習試合を行っていく。職員が健康の知識をつける為にも、研修等に参加していく。

④ 利用者支援の強化

- ・利用者の気持ちを知る会議を月1回開催しているが、令和7年度も引き続き行っていく。
- ・職員の知識を福祉業界の最新の支援にバージョンアップできるように、研修を行い職員一人一人の意識を変えていく。また、外部研修で学んだ知識を職員に周知し、質を高めていく。

⑤ インカムの導入

今までは、内線電話やケアズのチャットを使い連絡を取りあっていたが、今後はインカムを導入し、業務連絡を円滑に行えるようにしていく。

⑥ 国際共生

- ・今後、外国の方の利用も増える可能性があり、令和7年の新規利用者がブラジルの方ということもあり、まずはコミュニケーションを円滑に図る為にも、職員会議でポルトガル語の勉強会をしたり、掲示物に日本語とポルトガル語で記載したり等、お互いに自国の言語を教えあう環境を職員にも利用者にも提供していく。

また、今後インドネシアの方の受け入れが出来る様に、ガイアとまんなかと情報共有をしていく。

数値目標

	碧南ふれあい作業所	事業活動収入計
利用定員	60人	
利用者延数	12700人	
1日平均利用者数	52.0人	
稼働率、稼働指数*	86.7%	
稼働日数	245日	
障害福祉サービス収入	10,000千円	
職員数（常勤換算）	12.7人	12.7人

サビ管込み
管理者なし

III. 職員について

【碧南ふれあい作業所が目指す職員像】

『利用者の気持ちに寄り添い、自分で考え行動ができ、職員で共有し合える伴走者（職員）になろう』

まずは、自分の気持ちを理解し、他者の持っている視点や意見を理解し、自分ごととして感じとり、

共感力を高めていく。それと共に、行動も変化していけるようにしていく。

配置計画

従業者の 職種・員数	職種		サービス管理責任者		看護職員		生活支援員		調理員	
	専従・兼務の別		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
常勤(人)	①	②		1				8		
非常勤(人)	③	④			3		9		1	
当該職種の勤務延べ時間数			80		258.50		20435		135	
常勤換算後の人数			0.5		1.60		12.77		0.8	

研修計画

・事業所内研修

利用者の気持ちを知る研修：障害の種類と特性や体験活動、コミュニケーション方法を学ぶ研修を行っていく。

虐待防止委員会研修：事業所に設置した委員会メンバーによる虐待を防止するための研修。

認知症サポーター養護研修：高齢化が進む施設なので、無料で講師を招き認知症について理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの知識を身に付けてもらう。

・個別の研修計画 別紙参照

IV. 年間事業（行事）計画

区分	内 容
全体地区行事	わらふえす 碧南地区運動会
地域参加行事	元気ッス！へきなん 公民館祭り オレンジフェスタ
事業所行事	社会見学 ハロウィンパーティー クリスマス会 もちつき大会 BBQ大会
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断 職員健康診断 インフルエンザ予防接種 歯科検診
職員会議	職員会議（週1回） 身体拘束適正化委員会（月1回） 虐待防止委員会（年4回）
保安防災対策	防災・避難訓練（年4回）

V. 固定資産購入、修繕等

- ・令和7年度から11年度にかけて館内のエアコンの交換（碧南市予算より購入予定）
- ・令和8年度からLEDに順次対応していく（碧南市予算より購入予定）
- ・令和7年度ビジネスフォンリース満期と老朽化に伴い、ビジネスフォンの入れ替え 700,000円
- ・厨房の食洗器老朽化により入れ替え 1,400,000円

○施設老朽化の為、随時修繕の優先順位を考えていく。

事業所名

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

資 金 収 支 当 初 予 算

令和 7年 4月 1日

(単位: 円)

勘 定 科 目			前年度予算額	当初予算額	増 減
事業活動収入	収	0184 障害福祉サービス等事業収入	106,980,000	102,000,000	△4,980,000
		0185 自立支援給付費収入	95,480,000	90,200,000	△5,280,000
		8341 介護給付費収入	95,480,000	90,200,000	△5,280,000
		8371 特定費用収入	4,500,000	4,800,000	300,000
		0187 その他の事業収入	7,000,000	7,000,000	
		8381 補助金事業収入(公費)	850,000	500,000	△350,000
	入	8382 受託事業収入(公費)	6,150,000	6,500,000	350,000
		0195 その他の事業収入	5,200,000	5,100,000	△100,000
		0196 その他の事業収入	5,200,000	5,100,000	△100,000
		8494 その他の事業収入	5,200,000	5,100,000	△100,000
		0201 その他の収入	500,000	430,000	△70,000
		8612 利用者等外給食費収入	450,000	430,000	△20,000
		8613 雑収入	50,000		△50,000
	事業活動収入計(1)		112,680,000	107,530,000	△5,150,000
事業活動支出	支	0129 人件費支出	86,430,000	82,020,000	△4,410,000
		7112 職員給料支出	35,000,000	34,000,000	△1,000,000
		7113 職員賞与支出	8,880,000	9,200,000	320,000
		7114 非常勤職員給与支出	30,300,000	26,000,000	△4,300,000
		7116 退職給付支出	1,550,000	1,620,000	70,000
		7117 法定福利費支出	10,700,000	11,200,000	500,000
		0130 事業費支出	25,355,000	24,400,000	△955,000
		7211 給食費支出	5,695,000	5,800,000	105,000
		7215 保健衛生費支出	1,700,000	1,500,000	△200,000
		7217 被服費支出	20,000	15,000	△5,000
		7218 教養娯楽費支出	550,000	500,000	△50,000
		7219 日用品費支出	100,000	100,000	
		7222 本人支給金支出	5,005,000	4,500,000	△505,000
		7223 水道光熱費支出	6,000,000	5,500,000	△500,000
		7225 消耗器具備品費支出	500,000	1,000,000	500,000
		7226 保険料支出	75,000	75,000	
	出	7227 賃借料支出	200,000	200,000	
		7228 教育指導費支出	1,500,000	1,600,000	100,000
		7231 葬祭費支出	100,000	100,000	
		7232 車輛費支出	3,900,000	3,500,000	△400,000
		7235 雑支出	10,000	10,000	
		0131 事務費支出	10,270,000	10,445,000	175,000
		7311 福利厚生費支出	530,000	550,000	20,000
		7312 職員被服費支出	30,000	30,000	
		7313 旅費交通費支出	30,000	30,000	
		7314 研修研究費支出	432,000	350,000	△82,000
		7315 事務消耗品費支出	1,204,000	1,300,000	96,000
		7316 印刷製本費支出	360,000	380,000	20,000
		7319 修繕費支出	1,000,000	1,000,000	
		7321 通信運搬費支出	220,000	220,000	
		7323 広報費支出	30,000	10,000	△20,000
		7324 業務委託費支出	3,700,000	3,800,000	100,000
		7325 手数料支出	70,000	70,000	
		7326 保険料支出	750,000	750,000	
		7327 賃借料支出	700,000	700,000	
		7328 土地・建物賃借料支出	120,000	120,000	
		7329 租税公課支出	150,000	150,000	

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

資 金 収 支 当 初 予 算

令和 7年 4月 1日

(単位:円)

勘 定 科 目		前年度予算額	当初予算額	増 減
	7331 保守料支出	800,000	800,000	
	7332 渉外費支出	5,000	10,000	5,000
	7333 諸会費支出	120,000	150,000	30,000
	7335 雑支出	19,000	25,000	6,000
	事業活動支出計(2)	122,055,000	116,865,000	△5,190,000
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△9,375,000	△9,335,000	40,000
施設整備等による収支	収 入			
	施設整備等収入計(4)			
	支 出			
	0144 固定資産取得支出	2,500,000	2,100,000	△400,000
	7524 器具及び備品取得支出	2,500,000	2,100,000	△400,000
	施設整備等支出計(5)	2,500,000	2,100,000	△400,000
その他の活動による収支	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△2,500,000	△2,100,000	400,000
	収 入			
	その他の活動収入計(7)			
	支 出			
	その他の活動支出計(8)			
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			
予備費支出(10)		565,000	565,000	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△12,440,000	△12,000,000	440,000
前期末支払資金残高(12)		12,440,000	12,000,000	△440,000
当期末支払資金残高(11)+(12)				

碧南ふれあい作業所 事業所紹介

碧南ふれあい作業所は、「働ける生活介護」が魅力の一つであります。
生活介護の中においても、作業に特化している所が特徴で社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としての良さである、季節に応じた行事も行っています。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指しています。

日中の活動について

ふれあい作業所では療育・身体・精神の手帳を持っている方を対象に様々な作業や行事を行っています。作業は自主製品班・農園班・下請け班・ステップ班（療育班）・ピース班（高齢班）の5つに分かれ、それぞれのスケジュールに沿って毎日活動をしています。作業内容は様々で利用者の方1人1人に合ったものを提案できるように心がけています。また、高齢班(ピース班)の方には、今までつちかってきた経験を尊重し、作業以外に余暇活動を充実させることで生きがいを見つけられるものにしていきたいと思っています。

ご本人・家族の方とは年度末に面談を行い、次年度の目標を立てています。
本人主体の目標を立て、本人のやる気を引き出すような支援をしています。
また、各班で外出等の企画も行っています。

【自主製品班】所属人数 23名

活動内容 紙すき製品、名刺印刷、アクリルたわし、編みぐるみ 等

●特 徴●

作業所では葉書・色紙・封筒・名刺などの紙すき製品は、すべて牛乳パックを再利用して作っています。作業所の紙すきはとても評判がよく、全国から注文を頂いています。紙すきは作業工程も多く、天候などによっても左右されてしまうため大量生産はできませんが、1つ1つ丁寧に作っています。紙すき以外にもアクリルたわしや編みぐるみなどを作って販売しています。また名刺や年賀状の注文も受けております。





【下請班】所属人数 21名

活動内容 自動車部品の加工、手袋の成型 等

●特 徴●

下請け班では自動車部品の加工や、手袋の成型作業を行っています。利用者の方は職員以上に作業に慣れているため量が多くても納品までにきちんと作業をおえることができています。工場から作業を頂いているため社会情勢に左右されやすく、作業が少ない日もあります。そのような時は散歩や自立課題などを取り入れて一人一人の特性に合った活動を取り入れています。





【農園班】所属人数 12名

活動内容 花苗栽培、市内花壇植替え、アルミ缶リサイクル、
EMボカシ 等

●特 徴●

農園班は、花苗を種から栽培して販売したり、市内の公園や公的機関などの花壇の管理や植え替え、また近隣の幼・保育園等にもお花を配布しています。花が好きな利用者が多い為、みんなで大事に花を育てています。農園は屋外での作業が中心のため利用者の方の健康管理には十分配慮しながら活動しています。特に真夏は屋外での作業をできるだけ減らし、水遊びや調理実習・工作などをして過ごすようにしています。





【ステップ班（療育）＆ピース班（高齢）】所属人数 5名

活動内容 工作、外出、各班の作業補助 等

●特 徴●

ステップ班は、毎日作業に取り組むことが難しい方達が自立課題や工作・調理実習、夏場にはプールを行ったり、散歩に出かけたりして過ごしています。また、昨年からアイディア C 体操協会の方に来てもらい、椅子に座りながらでもできる運動を行って機能維持運動を行っています。療育的な活動が中心ですが、作業を行うこともありメリハリのある生活ができるようにしています。また高齢となった利用者に喫茶活動や余暇活動を提供するピース班の活動も行っています。



行事&創作活動について

毎月、季節に応じたイベントを企画しています。4月は歓迎式、5月は社会見学、運動会、6月はバーベキュー大会、7月は元気ッス碧南、8月はわんこそうめん大会、10月はハロウィンパーティー、11月はわらフェス（旧ふれあい祭り）、大掃除、12月はクリスマス会、1月はもちつき大会を企画して利用者の方にリフレッシュをかねて楽しんでもらっています。また、バレンタインデー、ホワイトデーなどの創作活動も行っております。





ボッチャプログラムについて

昨年度から始めたプログラムで、健康維持を目的に毎月2回に分けて、ボッチャプログラムを行っています。今年は、昨年に続き日本福祉大学の文化祭にて行われているボッチャ大会に参加と他施設との試合を目標にしています。



スタッフ会議について

毎月1回、利用者と職員が集まり作業所のことについて話し合いをしています。行事について話し合うことがほとんどですが、利用者の方の意見や希望を聞くいい機会にもなっています。特に創作活動で何を作りたいか、式典やイベントでの役割を決める時などはみんな積極的に発言をしてくれています。自分達の意見が反映されることによってやりがいやいい施設作りに繋がっていくと考えています。

カウンセリング

週1回、カウンセラーの先生に来て頂き、希望者のみカウンセリングを行っています。利用者の悩みや問題を聞き、不安を解消できるように専門家に方にサポートしてもらっています。

厨房について

作業所の利用者数名が厨房内の洗い物や調理補助を行っています。同法人の就労系事業所「ふれあい工房アルゴ」からも利用者の方が来られ、盛り付けや配膳、翌日の仕込みを手伝っています。また包丁を使つての調理や味付けも利用者の方に行ってもらい、本人のやる気を高められるような支援をしています。

厨房に入るといことで衛生面には十分気を付けており、手洗いや消毒は特に徹底して行っています



日中一時支援について

(成人) 毎月第3土曜日に行っており、利用者に楽しんでい頂ける企画を提供しております。今年度4月ぎょぎょランド、5月お好み焼き作り、6月ビビンバ作り、7月タコライス作りを企画し沢山の方に参加して頂いております。

(児童) 春休み、夏休み、冬休みの受け入れを行っています。希望の班に行き、作

業体験から季節の行事を体験して頂いています。また、今年度から放課後支援の受け入れも再開しました。碧南ふれあい作業所を進路先の一つに入れてくださっている方を対象に、卒業後の移行がスムーズに行くように、各班の作業体験を行ってもらっています。



地域交流について

・紙漉き…わらわえす（作業所のお祭り）のワークショップにて紙すき体験を地域の方に向けて行いました。また、毎年12月と1月にひいらぎ特別支援学校の生徒に紙すきを体験してもらう為に利用者と一緒に訪問し、利用者が講師になり紙すき教え交流しています。



・花苗…市内の学校と花苗を通じて交流をしています。市内の幼保育園に農園で育てたお花をプレゼントしたり、お花を園児と一緒に植えたりもしました。また、中央中学校と中山地区と碧南ふれあい作業所の合同で生徒と作業所の利用者と中山地区の方で地域の花壇に花苗を植えました。

国は提唱する「地域共生社会」において、碧南ふれあい作業所の活動の中心である「花」を通じて、障がい当事者と共に開かれた地域をつくる事を目標にこの活動を行っています。当法人の当事者だけでなく、将来の地域を担っていく特別支援学校の生徒さんと共に地域との繋がりを深めていきたいと思い、この活動を令和6年から始めております。今年も、安城特別支援学校の生徒とも行っていく予定です。



特別支援学校×W H J碧南作業所



加藤医院

地域を、彩る

2025.4～

芸を通した
取組みが始まる



活動の写真

令和6年から、にしお特別支援学校の産業班と碧南市の生活介護事業所「碧南ふれあい作業所」が授業を通しての交流を始めました。昨年度に引き続き令和7年も行っています。交流内容は、お花の種を植えて、水をあげ、プランターに移して西尾市の商業施設や公共施設に納品をさせていただいています。この交流を始めて2年目となりますが、これからも継続していき地域に彩りを加え、魅力ある街づくりの一端を共に創っていきます。にしお特別支援学校の生徒の皆様と碧南ふれあい作業所の利用者の方々が大切にお花を育ててきました。世代や役割を超えた心あたたまる交流の輪を、是非ご覧ください。

にしお特別支援学校と
碧南ふれあい作業所の
授業を通しての交流!!

「にしお特別支援学校」



愛知県立にしお特別支援学校は令和4年に開校しました。高等部作業学習（産業班）では野菜や花の栽培、校内の環境整備など屋外での活動を中心に学習しています。作業学習では、働くために必要な力だけではなく、地域の皆様とのかかわりを通して「かがやく笑顔」「つながる人の輪」「広がる可能性」を目指し活動しています。

「碧南ふれあい作業所」



碧南ふれあい作業所は、碧南市にある「働ける生活介護」が魅力の事業所になります。日中、紙漉きやメッキ、花植えなどの作業をメインに取りくんでいます。作業以外にも、生活介護の良さである季節のイベントや創作活動も充実しており、仕事と余暇のメリハリのある生活を送ることができます。

にしお特別支援学校
碧南ふれあい作業所

とは?!

にしお特別支援学校 × 碧南ふれあい作業所